

使用方法

本内容は令和 5 年 4 月 5 日付の登録内容に基づいています。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		使用方法	本剤の使用回数	アシュラムを含む農薬の総使用回数
				薬量または希釈倍数	希釈水量または使用量			
日本芝	—	一年生雑草	秋～春期 (芝発芽前)	1,000～1,250mℓ /10a	200～300ℓ /10a	散布 (茎葉兼土壌処理)	3回以内	3回以内
			芝生育期 (雑草生育初期)	400～600mℓ /10a				
		多年生イネ科雑草	春夏期芝生育期 (雑草生育期)	800～1,000mℓ /10a				
樹木等	公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地、のり面等	一年生雑草	雑草生育期	1,000～2,000mℓ/10a	100～200ℓ /10a	植栽地を除く 樹木等の周辺地に 雑草茎葉散布	3回以内	3回以内
		多年生広葉雑草		2,000～3,000mℓ/10a				
		多年生イネ科雑草		3,000～5,000mℓ/10a				
		クズ		5,000mℓ/10a				
すぎ (下刈り)	—	ススキ	6月	20倍	300mℓ 株径30cmの株	局所散布(茎葉処理)	3回以内	3回以内
		アレチノギク、カラムシ シシウド等の大型雑草	雑草発生期			60ℓ/10a		
		クズ	6～7月	10倍	50ℓ/10a			

効果・薬害等の注意

- 雑草の発生程度により許容薬量内で使用量を増減してください。
- 吸収・移行性の高い薬剤ですが、局所散布及び群生地散布の場合には必要に応じて展着剤を加用し、よく付着するように十分散布してください。
- 局所散布または群生地散布は所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって散布してください。
- 砂土での土壌処理は発芽前雑草に対して残効性が劣るので使用はさけてください。
- カヤツリグサ科雑草に対して効果が劣るので、当該雑草の優占圃場での使用はさけてください。
- 遅効性で効果の現れるまでにかなりの時間を要し、散布時期が遅れると効果が劣りますので、時期を失しないように散布してください。
- 造林地の下刈りに使用する場合は、下記の項目に注意してください。
  - すぎにかかるると薬害を生じることがあるので、なるべくかからないように注意して散布してください。
  - 農作物にかかるると薬害を生じるので、農耕地の近くで散布する場合はなるべく風の弱い日に散布するなど薬液を飛散させないように十分注意してください。
- 日本芝に使用する場合は、下記の項目に注意してください。
  - 芝生育期(雑草生育初期)に使用する場合、芽立ち期の散布は一時的に黄化を生じるおそれがあるのでさけてください。
  - 芝生育期(雑草生育初期)及び春夏期芝生育期(雑草生育期)に使用する場合、夏季高温時の散布は一時的に黄化を生じるおそれがあるので、あらかじめ薬害の確認をしたうえで使用してください。
  - メヒンバ、スズメノカタビラに効果を安定させるため、4～5 葉期までに使用してください。
  - 春夏期芝生育期(雑草生育期)に使用する場合、多年生イネ科雑草草丈 20cm 以内で使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないように適切に処理してください。
- 公園、庭園等に使用する場合、特に以下のことに注意してください。
  - 石を汚染することがあるので、霊園、墓地等では使用しないでください。
  - 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布してください。
  - 水源池に本剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
  - 激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。

安全使用上の注意

- 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

- 使用前にラベルをよくお読みください。
- ラベル記載以外の用途には使用しないでください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

※本印刷物は令和 8 年 1 月時点の知見に基づいて作成しています。

製造  保土谷 UPL 株式会社  
ホームページアドレス: <http://www.hodogaya-upl.com/>

(取扱代理店)

販売  石原バイオサイエンス株式会社  
〒112-0071 東京都千代田区富士見 2 丁目 10 番 2 号  
ホームページアドレス <http://ibj.iskweb.co.jp/ibj/>



イネ科雑草から広葉雑草まで幅広く防除する！！

グリーン  
アービラン®  
液剤

ロングセラーのひけつは!!

雑草のない美しい芝地形成に  
貢献することです



有効成分: アシュラム … 37.0% 人畜毒性: 普通物\* 有効期限: 5年 物理的・化学的性状: 淡褐色澄明水溶性液体  
包装: 1ℓ × 12本 (紙パック) 5ℓ × 4本 (プラボトル)

\* 毒劇物に該当しないものを指している通称

# イネ科雑草から広葉雑草まで、幅広い効き目!! グリーンアージラン液剤

## 特長

### 1. イネ科雑草から広葉雑草まで、幅広く防除!

防除の難しいメヒシバやスズメノカタビラなどの一年生イネ科雑草やメリケンカルカヤなどの多年生イネ科雑草に対し、茎葉処理で高い効果を示します。広葉雑草では、特にキク科雑草（アレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン）に有効です。

### 2. 日本芝での高い安全性!

日本芝の生育期から休眠期まで、幅広く使用できます。

### 3. 人畜毒性、環境影響の少ない薬剤です!

普通物\*に該当。散布後は長時間土壌表面に留まることなく、植物体内または土壌中で比較的速やかに分解されますので、土壌や水系を汚染する心配はほとんどありません。

\* 毒劇物に該当しないものを指している通称

### 4. 除草剤、抑草剤との組み合わせによって効果が安定します!

他の土壌処理剤や茎葉処理剤との組み合わせにより、茎葉処理効果の付与、効果の安定化に寄与します。

## 作用機作・殺草特性



- ・アジュールは遅効的で、効果発現～完成までの期間は温度条件により大きく左右されます。
- ・高温期は1～2週間で効果が発現、1ヶ月程度で効果が完成（枯死）します。
- ・低温期は効果発現がゆっくりと進行し、効果の完成まで1ヶ月以上の時間を要します。特に、降霜後では更に時間を要します。

## ● 効果の発現 (メヒシバ3葉期処理 保土谷化学工業(株)筑波研究所 下妻圃場)



2011年7月1日(処理後2日)



2011年7月15日(処理後16日)

※効果の発現 完成までの期間は温度条件に左右されます。上記は夏期に使用した場合の一例です。

## ● 殺草スペクトラム

雑草種別	一年生雑草											多年生雑草					
	イネ科	キク科										イネ科	イネ科				
適用雑草	メヒシバ*	オヒシバ	エノコログサ	スズメノカタビラ*	アレチノギク	ヒメムカシヨモギ	ハハコグサ	ヒメジョオン	ツメクサ	オランダミミナグサ	タネツケバナ	イヌタデ	ヤハズソウ	カヤツリグサ	スズメノヒエ**	メリケンカルカヤ*	チガヤ*
除草効果	●	●	○	●	●	●	○	●	○	△	○	●	△	×	●	●	○
薬量 mL/10a	400~600			1000~1250	400~600				1000~1250		400~600		800~1000				

一年生雑草は生育初期、多年生イネ科雑草は生育期に対する効果を示します \* 効果を安定させるため、4~5葉期までに使用してください \*\* 草丈20cm以内で使用してください



スズメノカタビラ(イネ科)

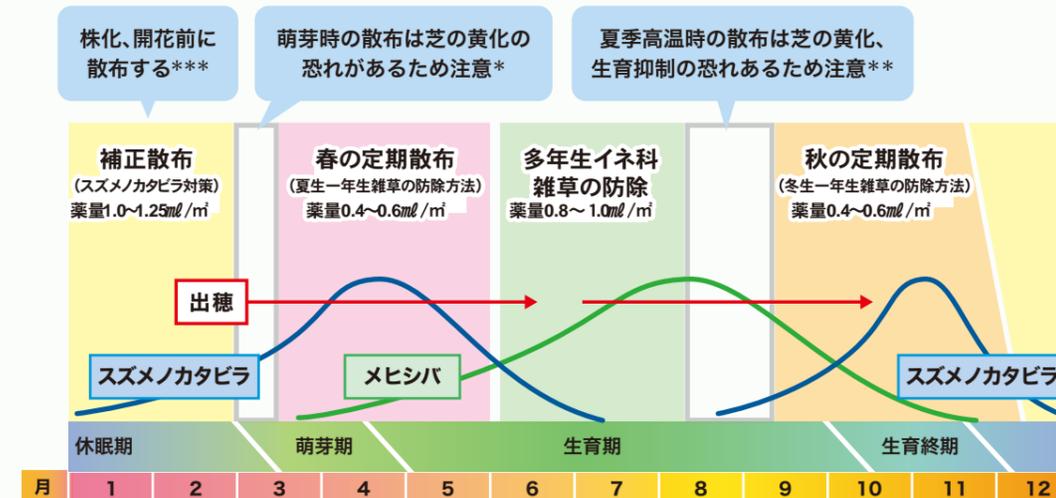


アレチノギク(キク科)

除草効果:  
●効果極大、○効果大  
△効果小、×効果なし

## 日本芝での上手な使い方

- 春の定期散布 (夏生一年生雑草の防除)
  - 春の芝の芽立ち期の散布は一時的に黄化を生ずる恐れがあるので避けてください。\*
  - 芝の芽立ち後、土壌処理剤との混用により、既発生のメヒシバなどの一年生雑草の防除が可能です。
  - **メヒシバの4~5葉期までに散布してください。**
  - 散布後7~10日後には刈り込みが可能となります。
- 多年生イネ科雑草の防除方法
  - 春夏期に生育が旺盛になる多年生イネ科雑草(草丈20cm以内)の防除が可能です。
  - **夏季高温時の散布は一時的に芝の茎葉部の黄化や生育抑制などの症状が生ずる恐れがありますので、スポット処理をおすすめします\*\*。**他の除草剤や抑草剤との混用も効果的です。
- 秋の定期散布 (冬生一年生雑草の防除)
  - 初秋の土壌処理剤との混用により、既発生のスズメノカタビラなどの一年生雑草の防除が可能です。
  - **スズメノカタビラの4~5葉期までに散布してください。**
- 晩秋~厳冬の補正散布 (スズメノカタビラ対策)
  - 早春に目立つスズメノカタビラに対する効果は不安定になるため、**スズメノカタビラが大きく株化または開花する前に晩秋~厳冬にかけて散布することが効果的です\*\*\*。**
  - 他の除草剤との混用によりスズメノカタビラに対する効果がより安定し、防除適期も広がります。



株化、開花前に散布する\*\*\*  
萌芽時の散布は芝の黄化の恐れがあるため注意\*  
夏季高温時の散布は芝の黄化、生育抑制の恐れあるため注意\*\*

